

社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣良次

2017. 1
No.281

2017年、明けましておめでとうございます。

昨年は、イナテック鳥取工場の竣工、AW様からの大物ギヤ移設と、イナテックにとって盛りだくさんの一年でした。

また、品質や納期でもAW様をはじめ、お客様に御迷惑をお掛けした一年でした。

さて、世間では、年の初めからIoT(様々なモノがインターネットに繋がること)やAI(人工知能)が新聞やテレビを賑わせております。

しかし、これらは何でもできる「打ち出の小槌」ではありません。代替え可能な部分は委ねても、コントロールするのは人間なのです。様々なデータの中から人間が迅速な意思決定

をするためにAIを活用する、つまり人とAIが補完し合うということが大切なのです。

機械によるモノづくりや機械保全は、必ず人間がやらなければなりません。

イナテック社員はIoTやAIよりも、まずはTPM活動を通して「製造設備に強くなる」ことが大切なのです。

『選択と集中』

昨年は、皆さんが一所懸命汗をかいて仕事をしていただいたにもかかわらず、結果に結びつかない年でした。我々経営陣幹部が、皆さんを効果的に導けなかつた事を大変反省しております。

そこで今年のイナテックのキーワードは、

『選択と集中』としました。

『選択と集中』とは、「全体像を把握し、やるべき事を明確にした上で何か一つを選択し、その一つのこと集中することで最大の成果を上げることができる」という戦略のことです。

昨年12月8日に行われたTPM優秀継続賞

予備審査で、JMAC(日本能率コンサルティング)の渡辺先生から「もっと問題点をレベル分け、ランク分けし絞り込む。そして一つずつ問題の根源を断つ活動をしていく。そうすると、社員の皆さんにも階段を上るように実感でき、効果が見える」というアドバイスをいただきました。

『選択と集中』は、「重点志向」という考え方もあります。

今年は「品質最優先」と「故障ゼロ」に向かって『選択と集中』です。

不良品を流さないのは当たり前ですが、「暫定的な対策」ではなく、「根本的な対策」つまり“不良品を作れない対策”を全員が“集中”して考え、実行することです。

必ず結果はついてきます。

年の初めに思う

お正月の報道で、凶悪犯罪件数と交通事故死者数の統計実績を発表していました。

今までの報道では、殺人事件、次いで交通事故が多く、「ろくでもない日本」という印象を受けるものばかりでした。

しかし、ある放送局では、今年は殺人事件が過去最低で、かつ検挙率が100%以上と報道していました。「検挙率100%以上」とは、前年以前の未解決事件の殺人犯を検挙できたということことです。

とかく警察の批判ばかりを報道するマスコミですが、一部、正しい報道をする放送局が出てきた事は大変素晴らしいことです。

“事実を事実として報道する”、そして、“明るいニュースがたくさん報道される”日本を望んでいます。

また、去年の交通事故による全国の死者数は3,904人で、4,000人を下回ったのは、1949年以来67年ぶりだそうです。犠牲者を減らせたのも、警察や行政の地道な努力の積み重ねの賜物であると報道していました。

1949年(昭和24年)といえば、洗濯機も冷蔵庫もテレビもクーラーも、もちろん自動車

もある一般家庭は、ほとんど無かった時代です。

今では一家に2、3台の車を持つ時代(田舎では1人1台)ですが、それにもかかわらず、交通事故死者数が激減したという事実の報道に驚きました。

ただし、65歳以上の高齢者の交通事故死者数の割合は、過去最悪の54.8%でした。

『選択と集中』の見方でいえば、「いかに高齢者の方を交通事故から守るか」が集中して取り組むべき課題です。

四三

竹籬下、忽聞犬吠鶏鳴、恍似雲中世界。芸窓中、雅聽蟬吟鴉噪、方知靜裡乾坤。
一ちくり
竹籬の下、忽ち犬吠え鶏鳴くを聞けば、恍として雲中の世界に似たり。芸窓の中、雅に蟬吟じ鴉噪ぐを聴けば、方に靜裡の乾坤を知る。

竹垣のあたりで、ふと、犬が吠え鶏が鳴く声が聞こえてくると、ついうっとりとして白雲の仙郷にいるように思われる。また、書齋の中にいて、いつも、蟬が鳴きからすが騒ぐのを聴いていると、(その自然な歌声で)、ついそれによって閑靜な別天地にあることがわかる。

これができるば、もっと住み良い日本になり、世界で最も幸せな国になることは間違いないありません。

イナテックも『選択と集中』で、“もっといい会社”にしましょう。

“念ずれば花開く”で、必ず明るい未来は開けます。

2017年も皆さんにとって実りある年になりますよう、お祈りいたします。

今年もよろしくお願い申し上げます。

